

趙静

Jing Zhao (cello)

深い音楽性とヴィルトゥオシティを併せ持つ趙静は、今や国際的な地位を確立しつつある最も前途有望なアーティストのひとりである。同世代の中でも有数の中国人チェリストである趙静は、権威あるコンクールとして知られるミュンヘンのARD国際音楽コンクールで第1位を受賞し、2009年には日本のエクソンモービル音楽賞を受賞。小澤征爾により北京大劇院におけるニューイヤー特別ガラ・コンサートのソリストに、ヴァイオリンのヴァディム・レーピン、ピアノのランラン、歌手のキャスリーン・バトルと共に選ばれた。小澤征爾はそれ以前にも趙静のベルリン留学に助力しており、趙静はベルリンのカラヤン・アカデミーで学ぶほか、ヨーヨー・マ、ロストロポーヴィチにも個人レッスンを受けた。

ロストロポーヴィチは彼女の類まれな才能を認め、ベルリン音楽院の有名なダヴィド・ゲリングガスのクラスで学ぶことができるように計らった。小澤征爾、ロリン・マゼール、リッカルド・ムーティ、アンドリス・ネルソンス、チョン・ミョンフン、ムーハイ・タン、ミハイル・プレトニョフ、ユーリー・バシュメット、小林研一郎、ジャン・フルネ、エリアフ・インバル等、趙静は世界の一流指揮者との共演を重ねている。また、NHK交響楽団、ベルリン交響楽団、新日本フィルハーモニー管弦楽団、北京交響楽団、バイエルン放送管弦楽団、ミュンヘン室内管弦楽団、香港フィルハーモニー、韓国のKBSフィルハーモニー、北ドイツ放送交響楽団、スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、シドニー交響楽団、シンガポール交響楽団等多くの世界的名門オーケストラと共演を果たしている。趙静はベルリン滞在中に室内楽でも引く手あまたの演奏家となり、エマニュエル・パユ、ガイ・ブラウンシュタイン、榎本大進、ポール・メイエ、ボリス・ベレゾフスキー、エリック・ル・サージュ、アントワン・タメスティ、コンスタンチン・リフシツ、トレヴァー・ピノックらと共演している。チョン・ミョンフンと共にアジアツアーを行った際には、日本の皇太子殿下との共演にも招かれた。

また、ドーラ・シュヴァルツベルクと共にアルゲリッチに選ばれ、アルゲリッチのルガーノ・フェスティバルの期間中にチャイコフスキーの三重奏曲を演奏、録音した。今では趙静はこのフェスティバルの常連ゲストとなっている。そのほかエルサレム国際室内楽フェスティバル、ザグレブ国際フェスティバル、ザグレブ室内楽フェスティバル、Roland's Ecke in Bonn WH、バート・キッシンゲン、イスタンブール国際フェスティバル、アルゲリッチの別府フェスティバル、ラ・フォル・ジュルネ等多くのフェスティバルに出演している。

趙静は国際的に活躍し、最高難度のレパートリーも難なく弾きこなすチェリストとして認められており、その深い音楽家精神を世界中の聴衆に届けることができる。

これまでに日本のヴィクター・エンターテインメントから5枚のCDがリリースされている。使用楽器は私立財団より貸与されているモンタニャーナ(1738年)。今後のCDとしては、ショスタコーヴィチのチェロ協奏曲のロシア・アルバムと、タン・ドゥンのチェロ協奏曲2曲を含む中国アルバムがリリースされる予定である。

(2019年4月現在 1310文字)

*プロフィールの一部を使用する場合、日数が経過している場合は、ジャパン・アーツの校正チェックをお受け頂きますようお願い申し上げます。

株式会社ジャパン・アーツ

<http://www.japanarts.co.jp>

〒150-8905 東京都渋谷区渋谷 2-1-6

TEL: 03-3499-8100 / FAX: 03-3499-8102

JAPAN ARTS CORPORATION

<http://www.japanarts.co.jp>

2-1-6, Shibuya Shibuya-ku,

Tokyo JAPAN 150-8905

TEL: 81-3-3499-8091 FAX: 81-3-3499-8092

趙静

Jing Zhao (cello)

権威あるミュンヘンのARD国際音楽コンクールで第1位。小澤征爾により北京大劇院におけるニューイヤール特別ガラ・コンサートのソリストに、ヴァイオリンのヴァディム・レーピン、ピアノのランラン、歌手のキャスリーン・バトルと共に選ばれた。ロストロポーヴィチは彼女の類まれな才能を認め、2001年～2010年の間ベルリン音楽院の有名なダヴィド・ゲリングスのクラスで学ぶことができるように計らった。小澤征爾、ロリン・マゼール、リッカルド・ムーティ、アンドリス・ネルソンス、チョン・ミョンフン、ムーハイ・タン、ミハイル・プレトニョフ、ユーリー・バシユメット、小林研一郎、ジャン・フルネ、エリアフ・インバル等、趙静は世界の一流指揮者との共演を重ねている。偉大なピアニスト、マルタ・アルゲリッチに選ばれ、ルガーノ・フェスティバルでチャイコフスキーの三重奏曲を共演、録音した。今後のCDとしては、ショスタコーヴィチのチェロ協奏曲のロシア・アルバムと、タン・ドゥンのチェロ協奏曲2曲を含む中国アルバムがリリースされる予定である。

使用楽器は私立財団より貸与されているモンタニャーナ（1738年）。

(2019年4月現在 475文字)

*プロフィールの一部を使用する場合、日数が経過している場合は、ジャパン・アーツの校正チェックをお受け頂きますようお願い申し上げます。

Jing Zhao (cello)

Winner of the 1st prize at the renowned ARD International Music Competition (54th) in Munich in September 2005. In addition, she was awarded the prize for best interpretation of a new work and the audience prize at this renowned competition. 2009 Music Awards by ExxonMobil in Japan. Jing Zhao born in Beijing and started playing the violoncello at the age of five. While studying at the Central Conservatory of Music in Beijing, she was discovered by the Japanese cellist, Mr. Ryosuke Hori. Deeply impressed by her musical gifts, he arranged to invite her to Japan for further study. In 1996, she received a special scholarship for foreign students from the Tokyo College of Music and enrolled in its affiliated high school. In 1999, Maestro Ozawa helped her to move to Berlin for further study at the Karajan Academy and took private lessons with Maestro Rostropovich and Yo-Yo Ma.

After winning the first prize at the Second Cello Competition organized by Viva Hall in Japan 1997, she has performed under noted conductors such as Seiji Ozawa, Jean Fournet, Myung-Whung Chung, Eliahu Inbal and Riccardo Muti. She is also active in chamber music and performed with Emmanuel Pahud, Paul Meyer, Eric Le Sage, Guy Braunstein, Konstantin Lifschitz and Trevor Pinnock. In January 2007, she was chosen to perform chamber music with H.I.H. Crown Prince Naruhito (Japanese prince) together with Daishin Kashimoto (vln.), Dong-Hyuck Ahn (contrabass), and Myung-Whun Chung on piano.

Jing ZHAO has played with many world class orchestra as NHK Symphony, New Japan Philamonic, NDR Symphony Orchestra, Filharmonica della Scala, Singapore Symphony Orchestra, Sydney Symphony Orchestra and Prag Symphony. In the year 2008 she played opening new year concert for China Grand Theater in Beijing with Maestro Seiji Ozawa.

Five CDs and one DVD have been released from Victor Entertainment in Japan.

Jing ZHAO has studied under Song Tao, Georg Faust, Ryosuke Hori, and Mario Brunello, and from 2002 study at the Hanns Eisler Academy in Berlin under David Geringas.

In July 2009, Jing ZHAO played piano trio tour with Myung-Whun Chung, and in September after playing in Jerusalem festival, also in September Jing ZHAO played a Japan tour under Mikhail Pletnev.

In April 2012 Jing Zhao performed Haydn cello concerto in C with the philharmonic orchestra under maestro Lorin Maazel. In June 2012 she was invited by Martha Argerich to her festival in Lugano. With her deep musicality and virtuosity, Jing ZHAO is considered one of the most promising artists now establishing an international career.

Jing Zhao uses Giovanni Grancino made in 1690 which is kindly loaned by Mr. Lin Kim Min in Singapore.

2019/20 season only. Please contact Japan Arts if you wish to edit this biography.

株式会社ジャパン・アーツ

<http://www.japanarts.co.jp>

〒150-8905 東京都渋谷区渋谷 2-1-6

TEL: 03-3499-8100 / FAX: 03-3499-8102

JAPAN ARTS CORPORATION

<http://www.japanarts.co.jp>

2-1-6, Shibuya Shibuya-ku,

Tokyo JAPAN 150-8905

TEL: 81-3-3499-8091 FAX: 81-3-3499-8092